

第2章 研究業績一覽

1. ここに登載したものは試験研究報告、学術雑誌、学会講演要旨集などに発表したオリジナルなものに限った。
2. 配列は主として各科、分場ごとの業績を年代順に並べ、通し番号をうった。最終は昭和58年12月31日までとした。
3. 記述の方法はつぎのとおりとした。
番号、著者氏名（刊行西暦年）：課題名。発表誌名、巻（号）：最初と最後のページ。
4. 発表誌名は下記のものについては略名を用い、その他はフルネームを用いた。なお学会講演要旨については、学会誌に登載のものは題名のあとに（講要）と記し、講演要旨集についてはそれぞれ略名のあとに（〇回）（〇集）（昭〇）などを記した。

刊行物および略名の一覽

刊行物の名称	略名	刊行物の名称	略名
病虫害雑誌	病虫雑	日本作物学会四国支部紀事	日作四国紀事
中国四国農業研究	中国四国農研	日本作物学会四国地域談話会	日作四国談話会
園芸学会中四国支部大会研究発表要旨	園芸中四国発表要旨	日本植物病理学会報	日植病報
園芸学会秋季大会研究発表要旨	園芸秋季発表要旨	日本草地学会誌	日草誌
園芸学会春季大会研究発表要旨	園芸春季発表要旨	農業経営通信	経営通信
育種学会四国談話会報	育種四国談話会報	農業機械学会誌	農機誌
育種学雑誌	育種雑	農業及園芸（農業および園芸）	農及園
関西病虫害研究会会報	関西病虫研報	農作物有害動物植物発生子察特別報告	発生子察特別報告
関西農業経済学会講演要旨	関西農経講演要旨	農村生活研究会発表要旨	生活研究発表要旨
関西農業経済学会四国支部講演要旨	関西農経四国講演要旨	応用昆虫	応用昆
日本農薬学会誌	農薬誌	四国農業研究	四国農研
日本農薬学会講演要旨	農薬講演要旨	四国農業試験場報告	四国農試報
日本土壌肥科学雑誌	土肥誌	四国植物防疫研究	四国植防研
日本土壌肥科学会講演要旨集	土肥講演要旨	徳島県畜産試験場試験研究報告	徳島畜試研報
日本土壌肥科学会関西支部講演要旨	土肥関西講演要旨	徳島県農業試験場試験研究報告	徳島農試研報
日本応用動物昆虫学会誌	応動昆	徳島県農業試験場特別報告	徳島農試特別報告
日本応用動物昆虫学会大会講演要旨	応動昆講演要旨	徳島県立農事試験場臨時報告	徳島農試臨時報告
日本作物学会紀事	日作紀	徳島県立農事試験場特別報告	徳島農試特別報告

フルネーム誌名

・大日本農会報・昆虫・日本園芸雑誌・農業技術・農林省農業改良技術資料・農林水産技術会議事務局研究成果・農薬残留分析研究会発表要旨・植物防疫・植物防疫事業30周年記念誌・四国農業の新技术・雑草(の)

研究・実用化技術レポート・低位生産調査事業10周年記念論文集・開拓地土壌調査事業10周年記念論文集・竹(Bamboo)・全国竹の会発表要旨 等

1. 作物科・育種科

- (1) 滝口義資(1934)：水稻の倒伏が収穫に及ぼす影響。農及園，9(11)：2393～2395。
- (2) 滝口義資(1934)：小麦根の剪去が地上部の生育並に収量に及ぼす影響(予報)。日作紀，6(4)：475～483。
- (3) 川又是好・橋口俊教(1935)：耕種法の変更に依る麦類の性能発揮について(予報)。日作紀，4(4)：322～326。
- (4) 滝口義資(1935)：生育の各期に於ける土壌の含湿状況と小麦の生育。日作紀，7(1)：39～48。
- (5) 滝口義資(1936)：生育の各期に於ける土壌の含湿状況と裸麦の生育。日作紀，8(3)：409～418。
- (6) 米倉豊吉(1939)：貯蔵麦種子の実用価値について。農及園，14(6)：1487～1490。
- (7) 天野晃(1953)：裸麦の葉先黄変現象に関する研究 第1報。これが収量におよぼす影響。徳島農試研報，(1)：23～25。
- (8) 貴田武捷・矢野明(1953)：塩害地の利用に関する研究 第1報。塩分濃度と七島藪の生育との関係。徳島農試研報，(1)：32～35。
- (9) 天野晃(1957)：徳島県における裸麦品種の枯熟れ抵抗性差異について(現地試験)。徳島農試研報，(2)：3～4。
- (10) 天野晃・木村春行(1958)：麦の枯熟れの研究 第4報。登熟期の土壌の乾燥が裸麦の生育ならびに稔実に及ぼす影響について。四国農業研究，(3)：10～12。
- (11) 天野晃(1959)：晩期灌漑栽培と慣行栽培における水稻生育相の比較。四国農業研究，5：1～4。
- (12) 鳥羽清・佐竹治男(1960)：水稻の移植時期に関する研究 第1報。移植時期の移植が品種間の生育におよぼす影響について。徳島農試研報，(5)：5～9。
- (13) 鳥羽清・佐竹治男(1962)：水稻乾田直播栽培における発芽苗立に関する研究 第1報。種籾の処理と覆土量について。徳島農試研報，(6)：10～12。
- (14) 鳥羽清・佐竹治男(1962)：肥沃田における水稻の栽培時期別生産力比較について。四国農研，(8)：33～36。
- (15) 桑野正信・江口浩司(1964)：水稻二期作に関する研究 第1報。第1期稲の移植時期について。徳島農試研報，(7)：1～2。
- (16) 桑野正信・小山弘・江口浩司(1964)：水稻二期作に関する研究 第2報。第1期稲の育苗について。徳島農試研報，(7)：3～6。
- (17) 原敏・小山弘(1964)：秋播てん菜の播種期と生育収量について。徳島農試研報，(7)：17～19。
- (18) 桑野正信・佐竹治男・小山弘(1966)：乾田直播栽培における除草法と雑草害との関係について。徳島農試研報，(8)：1～6。
- (19) 桑野正信・鳥羽清(1967)：直播水稻の生育特性について。徳島農試研報，(9)：1～5。
- (20) 鳥羽清・小山弘・佐竹治男(1967)：糯米と粳米の胴割発生の差異について。徳島農試研報，(9)：6～9。
- (21) 桑野正信・小山弘(1967)：ビール麦の不稔防止に関する研究 第1報。出穂前後における高温処理と不稔発生との関係。徳島農試研報，(9)：10～12。
- (22) 佐竹治男・桑野正信(1967)：暖地におけるウリカワの生態と防除に関する2・3の知見。雑草の研究，(9)：25～28。
- (23) 桑野正信・小山弘(1968)：徳島県における水稻多収技術確立に関する研究 第1報。主要低収地帯別生産阻害要因の実態調査。徳島農試研報，(10)：1～10。
- (24) 桑野正信・鳥羽清(1968)：徳島県における水稻多収技術確立に関する研究 第2報。地帯別収量構成要素について。徳島農試研報，(10)：11～14。
- (25) 桑野正信・川人浩・小山弘(1969)：ビール麦の不稔防止に関する研究 第2報。出穂期の温度ならびにその持続時期と不稔発生および品種間差異について。徳島農試研報，(11)：1～3。
- (26) 宮本正義・林甚太郎・桑野正信(1970)：稚苗移植水稻の施肥法に関する研究。徳島農試研報，(12)：1～4。
- (27) 小山弘・矢野明(1972)：除草剤による放牧草

- 地のワラヒ防除効果。徳島農試研報, (13): 28-31。
- (28) 川人浩・小松良行・佐竹治男(1974): 水稻機械移植育苗における液肥の利用に関する研究第4報。液肥用配合肥料の実用性。日作四国紀事, (11): 1-6。
- (29) 酒井勇夫(1975): ウリカワの発生と防除。徳島農試研報, (14): 1-4。
- (30) 酒井勇夫(1977): CMPT剤の麦類に対する薬害助長条件。徳島農試研報, (15): 67-72。
- (31) 馬淵敏夫・小山弘(1978): ムギ類の発芽試験における水分条件に関する一実験。徳島農試研報, (16): 1-5。
- (32) 馬淵敏夫・小山弘(1978): 藍の育種学的基礎研究, I 生殖様式およびF₁植物の形質(講要)。育種学雑誌28(別1): 26-27。
- (33) 小山弘・佐竹治男・馬淵敏夫(1978): 水田三毛作による穀物生産に関する研究(予報)。日本作物学会四国支部講演要旨(昭53): 5。
- (34) 馬淵敏夫・小山弘(1979): 二条大麦における着粒位置と登熟との関係。日本作物学会四国支部講演要旨(昭54): 7
- (35) 馬淵敏夫(1979): 藍の育種学的基礎研究 II. 奇形花の種類と出現状況。日本育種学会四国談話会報, (13): 29-32。
- (36) 小山弘・原春雄・野本陽一(1979): 暖地水田裏作麦の高産率生産と安定化。実用化技術レポート, (70): 1-37。
- (37) 酒井勇夫(1980): 二条大麦(ビール麦)の品種および栽培法によるうどんこ病罹病性の差異。徳島農試研報, (18): 1-5。
- (38) 佐竹治男・鳥羽清・小松良行(1980): 水稻機械移植育苗における遮光性フィルムの利用について 第1報。徳島県における遮光性フィルムの普及実態とその問題点。日作四国紀事, (16): 1-5。
- (39) 馬淵敏夫・小山弘(1981): 二条大麦種子の休眠打破における過酸化水素処理条件と休眠性程度との関係(講要)。日作紀, 50(別2): 181-182。
- (40) 田岡敏夫・小山弘・近井謙二・宮内直利・武市雅志(1981): 四国地域における転換畑大豆の収量性 第2報。収量性の品種間差異。日作四国紀事, (18): 53-58。
- (41) 小山弘・佐竹治男・酒井勇夫・馬淵敏夫(1981): 豊凶考照試験の結果からみた1980年の異常気象被害の要因。四国農試報, 別(1): 36-39。
- (42) 佐竹治男・後藤田栄一(1982): 奨励品種決定調査の結果からみた1980年の異常気象被害の要因。四国農試報, 別(1): 40-44。
- (43) 小山弘・鳥羽清・谷本温暉(1982): 徳島県における転作大豆の収量からみた地域性とその要因(第1報)。地帯別収量の変動。徳島農試研報, (20): 1-5。

2. 作物科・経営科(草地・飼料作物)

- (1) 矢野明(1957): 土壌保全牧草の侵蝕防止効果について。徳島農試研報, (2): 1-2。
- (2) 矢野明(1959): クロレート系枯草剤のネザサ枯殺効果について。日作四国談話会。
- (3) 矢野明(1960): 青刈ナタネに関する研究((第1報)刈取時期別養分の消長について。四国農研, (5): 51-52。
- (4) 矢野明(1960): 傾斜地の草生改良について(第1報)牧草の適種選定試験。徳島農試研報, (5): 31-35。
- (5) 矢野明(1960): 吉野川流域畑地酪農における飼料自給上の諸問題。四国農研, (5): 51-52。
- (6) 矢野明・後藤田甚三・村部幸夫(1962): 傾斜地の草生改良について(第2報)導入牧草に対するチッソ追肥効果。徳島農試研報, (6): 24-30。
- (7) 矢野明・藤岡精二・山内節(1962): 腕山における県営放牧の概要。四国農研, (8): 123-126。
- (8) 矢野明・後藤田甚三・村部幸夫(1964)傾斜地の草生改良に関する研究(第2報)導入牧草に対するチッソの施用効果について。四国農研, (9): 35-38
- (9) 矢野明・後藤田甚三(1966): 水田利用牧草栽培試験。徳島農試研報, (8): 13-20。
- (10) 村部幸夫・矢野明(1967): 酪農自立経営規準の策定に関する研究(第1報)吉野下流域酪農の位置づけ。徳島農試研報, (9): 20-22。

第2章 研究業績一覧

- (11) 後藤田基三・矢野明(1967)：暖地型牧草の適種について。徳島農試研報, (9)：23～26。
- (12) 藤岡精二・矢野明・後藤田基三(1967)：徳島県における草地改良とその方向。四国農業の新技術, (4)：1～55。
- (13) 真淵昭雄・川人浩(1968)：徳島県における傾斜畑地帯の現状と今後の方向。四国農業の新技術, (5)：117～142。
- (14) 矢野明・後藤田基三(1968)：パーシムクローバの水田裏作栽培。徳島農試研報, (10)：113～117。
- (15) 村部幸夫・矢野明(1968)：酪農自立経営基準の策定に関する調査研究(第2報)吉野川下流地帯の酪農自立化の諸条件。徳島農試研報, (10)：103～112。
- (16) 村部幸夫・矢野明(1969)：水田酪農における飼料作物体系に関する研究。徳島農試研報, (11)：48～56。
- (17) 矢野明(分担)(1969)：四国地域に適する飼料作物の種類および品種。四国農業の新技術, (6)：1～55。
- (18) 矢野明(1969)：傾斜地の草生改良に関する研究(第4報)四国の草地学的地帯区分。徳島農試研報, (11)：57～65。
- (19) 矢野明(1969)：草地学・地帯別にみた研究動向と問題点—山地傾斜地—四国地方傾斜地。日草誌, 15(4)：338～340。
- (20) 矢野明(1970)：傾斜地の草生改良に関する研究(第5報)傾斜草地の環境特性。徳島農試研報, (12)：15～23。
- (21) 矢野明(1970)：暖地傾斜地の草生改良に関する研究(第6報)ススキの生産力維持の栽培学的手法(要旨)。日草誌, 16(3)：228。
- (22) 矢野明(1972)：暖地傾斜地の草生改良に関する研究(第6報)ススキの栽培による生産力。徳島農試研報, (13)：21～27。
- (23) 小山弘・矢野明(1972)：除草剤による放牧草地のワラビ防除効果。徳島農試研報, (13)：28～31。
- (24) 矢野明(1973)：暖地傾斜地の草生改良に関する研究(第7報)土塊の精粗と牧草種子の発芽。日草誌, 19(3)：261～264
- (25) 矢野明(1973)：暖地傾斜地の草生改良に関する研究(第8報)粗大有機物(落葉)の種類と牧草種子の発芽および初期成育。日草誌, 19(3)：265～268。
- (26) 矢野明(1973)：暖地傾斜地の草生改良に関する研究(第9報)イタリアンライグラス種子ペレット作成。日草誌, 19(3)：269～275。
- (27) 矢野明(1974)：暖地傾斜地の草生改良に関する研究(第10報)牛糞と鶏糞を用いた牧草種子ペレットの効果。日草誌, 20(4)：217～221。
- (28) 矢野明・小山弘・川口公男・本庄栄二(1974)：暖地傾斜地の草生改良に関する研究(第11報)新造成地における家畜糞尿の施用効果(講要)。日草誌, 20(別)：142～143。
- (29) 矢野明・林甚太郎・本庄栄二(1975)：中山間地帯における人工草地の造成と利用に関する実証的研究。関西農経四国講演要旨(11回)：16～25。
- (30) 矢野明(1976)：暖地傾斜地の草生改良に関する研究(第12報)ペレット種子の発芽定着条件。日草誌, 22(2)：99～103。
- (31) 矢野明・小山弘・本庄栄二(1977)：暖地傾斜地の草生改良に関する研究(第13報)造成法と牧草の種類。徳島農試研報, (15)：85～89。
- (32) 吉田建設・本庄栄二・矢野明・外(1978)：暖地傾斜草地における搾乳牛の放牧飼養技術。徳島畜試研報, (19)：45～73。
- (33) 柏木弥太郎・本庄栄二(1980)：暖地傾斜地の簡易更新。徳島農試研報, (18)：36～43。
- (34) 溝淵清之・柏木弥太郎・本庄栄二(1981)：放牧草地におけるバラ科雑木の薬剤防除試験(中間成績)。徳島畜試研報, (22)：102～105。

3. 野菜科

- (1) 佐藤靖臣・横山精治・篠崎包治(1953)：大根ウイルス病防除に関する調査。農及園, 28(11)：1328～1330。
- (2) 佐藤靖臣・横山精治・篠崎包治(1953)：大根ウイルス病防除に関する調査並びに試験成績。徳島農試研報, (1)：1～9。
- (3) 佐藤靖臣・藤井文明(1957)：大根の微量要素に関する研究(第1報)。徳島農試研報, (2)：5～6。

- (4) 佐藤靖臣・藤井文明(1957)：ほうれん草の播種期別品種生態について。徳島農試研報, (2)：7～8。
- (5) 佐藤靖臣・阿部泰典(1957)：土性及び土壤管理が早生玉葱の肥大に及ぼす影響について。徳島農試研報, (3)：19～22。
- (6) 佐藤靖臣・阿部泰典(1959)：芳香青皮栗南瓜の結実に関する研究 I。育苗温度と開花結実について (予報)。徳島農試研報, (4)：39～42。
- (7) 佐藤靖臣・阿部泰典(1959)：芳香青皮栗カボチャの育苗。温度と着果・結実について。園芸秋季発表要旨 (昭34)
- (8) 佐藤靖臣(1959)：徳島県における蓮根の早掘栽培法。農及園, 34(5)：782～786。
- (9) 佐藤靖臣・阿部泰典・藤井文明(1960)：トンネル・ハウス栽培における尿素のアンモニア揮散防止について。徳島農試研報, (5)：43～48。
- (10) 佐藤靖臣・城島十三夫・藤井文明・町田治幸(1962)：土壤改良剤の利用による速成床土の組成に関する研究 (第1報)。主剤及び補助材の種類と混用比について。徳島農試研報, (6)：47～55。
- (11) 佐藤靖臣・城島十三夫・藤井文明・町田治幸(1962)：土壤改良剤による速成床土の組成について。園芸秋季発表要旨 (昭37)
- (12) 佐藤靖臣・城島十三夫(1966)：礫耕の簡易化に関する研究 (第1報) ベッドの礫層構造について。徳島農試研報, (8)：41～46。
- (13) 城島十三夫・佐藤靖臣(1966)：BCBの実用化に関する試験。BCBの濃度と処理法がキュウリに及ぼす影響について。園芸秋季発表要旨 (昭41)
- (14) 城島十三夫・佐藤靖臣(1967)：BCBの実用化に関する試験 (第2報)。BCB処理がトマトの生育・収量に及ぼす影響について。園芸秋季発表要旨 (昭42)
- (15) 城島十三夫・佐藤靖臣(1967)：BCB (bromocholine bromide) の実用化に関する研究。徳島農試研報, (9)：63～74。
- (16) 城島十三夫・佐藤靖臣(1967)：礫耕の簡易化に関する研究 (第2報)。礫層構造と作物の生育収量との関係。徳島農試研報, (9)：75～82。
- (17) 城島十三夫・佐藤靖臣(1967)：礫耕の簡易化に関する研究 (第3報)。礫層構造と礫温について。徳島農試研報, (9)：83～92。
- (18) 城島十三夫・佐藤靖臣(1967)：れき耕の簡易化に関する研究 (第2報)。ベッドのれき層構造とれき温および生育収量との関係について。園芸中四国発表要旨 (昭42)
- (19) 藤井文明・佐藤靖臣(1967)：ハウスそ菜の窒素施肥に関する研究。窒素肥料の種類とキュウリの生育収量について。徳島農試研報, (9)：93～100。
- (20) 町田治幸(1967)：そ菜の砂栽培。農及園, 42(10)：1505～1509。
- (21) 町田治幸・佐藤靖臣(1967)：砂栽培の実用化に関する研究。徳島農試研報, (9)：101～107。
- (22) 城島十三夫・佐藤靖臣(1968)：そさいに対するBCBの実用化に関する研究(第2報) BCBの処理濃度がトマトの生育・収量におよぼす影響。徳島農試研報, (10)：57～68。
- (23) 堀裕・町田治幸(1968)：養液育苗培地としてのもみがらくん炭の化学性に関する試験。園芸春季発表要旨 (昭43)
- (24) 町田治幸・藤井文明・佐藤靖臣(1968)：そさいの養液育苗に関する研究 (第1報) 各種培地材の適応性ならびに培養液の種類および濃度。徳島農試研報, (10)：69～78。
- (25) 城島十三夫・阿部泰典・藤井文明・佐藤靖臣(1969)：ほうれんそうの品種生態に関する研究。徳島県の代表品種の特性について。徳島農試研報, (11)：13～19。
- (26) 町田治幸・阿部泰典・藤井文明(1969)：そさいの養液育苗に関する研究 (第2報) もみがらくん炭培地の特性について。徳島農試研報, (11)：4～12。
- (27) 阿部泰典・藤井文明・町田治幸(1970)：ハウスきゅうりの温度管理に関する研究。徳島農試研報, (12)：5～9。
- (28) 阿部泰典・町田治幸・野口孝(1970)：イチゴの奇形果防止に対する蜜蜂の効果。農及園, 45(6)：987～988。
- (29) 阿部泰典・町田治幸・福岡省二(1971)：ハウスイチゴの受精に関する研究 (第1報) 雌しべの寿命及び花粉の消長。園芸秋季発表要旨

第2章 研究業績一覧

- (昭46)
- (30) 阿部泰典・町田治幸・福岡省二(1971)：イチゴの奇形果防止に関する研究。雌ずいに及ぼす農薬の影響について。園芸中四国発表要旨(昭46)
- (31) 阿部泰典(1972)：ハウスイチゴの受精生理と栽培管理。農及園, 47(12)：1899～1703。
- (32) 阿部泰典・新居清(1972)：ナスのつぎ木栽培に関する研究(第1報)。園芸中四国発表要旨(昭47)
- (33) 阿部泰典・藤井文明・町田治幸・福岡省二(1972)：ナスのつぎ木に関する研究(第2報)。園芸中四国発表要旨(昭47)
- (34) 阿部泰典・町田治幸・福岡省二(1972)：促成イチゴの生産安定に関する研究(第1報)第2果, 第3花房の發育に対する長日処理の効果について。園芸中四国発表要旨(昭47)
- (35) 阿部泰典・町田治幸・福岡省二(1973)：徳島県におけるイチゴ(芳玉)の促成栽培。農及園, 48(9)：1201～1206。
- (36) 町田治幸・阿部泰典・森本嘉和・福岡省二(1974)：促成イチゴの生産安定に関する研究(第2報)電照利用における電照開始時期試験。園芸春季発表要旨(昭49)
- (37) 町田治幸・阿部泰典・福岡省二・木藤繁樹(1974)：促成イチゴの生産安定に関する研究(第3報)電照利用における電照方法について。園芸春季発表要旨(昭49)
- (38) 阿部泰典(1975)：野菜の生育障害とその対策(ナス, マメ類)。園芸秋季シンポジウム要旨(昭50)
- (39) 阿部泰典・木藤繁樹(1975)：ビニールハウス利用によるニンニクの早出し栽培。農及園, 50(7)：898～902。
- (40) 阿部泰典・木藤繁樹・福岡省二(1975)：ニンニクの早出し栽培に関する研究(第1報)発芽に及ぼす温度の影響。園芸春季発表要旨(昭50)
- (41) 阿部泰典・木藤繁樹・福岡省二(1975)：ニンニクの早出し栽培に関する研究(第2報)発芽に及ぼす低温処理の影響。園芸春季発表要旨(昭50)
- (42) 阿部泰典・木藤繁樹・福岡省二(1975)：ニンニクの早出し栽培に関する研究(第3報)種球の低温処理が露地栽培の生育に及ぼす影響。園芸中四国発表要旨(昭50)
- (43) 阿部泰典・木藤繁樹・町田治幸(1975)：ニンニクの早出し栽培に関する研究(第4報)プラスチックマルチが発育に及ぼす影響。園芸中四国発表要旨(昭50)
- (44) 木藤繁樹・福岡省二・阿部泰典(1975)：ニンニクの早採り栽培に関する研究。徳島農試研報, (14)：25～30。
- (45) 町田治幸・阿部泰典・福岡省二・森本嘉和・木藤繁樹(1975)：電照利用による促成イチゴの生産向上に関する研究 第1報。生産力に及ぼす光中断及び電照開始時期の影響。徳島農試研報, (14)：5～14。
- (46) 福岡省二・木藤繁樹・町田治幸・森本嘉和・阿部泰典(1975)：電照利用による促成イチゴの生産向上に関する研究 第2報。生産力に及ぼす株間, 整芽方法, 摘果および苗質の影響。徳島農試研報, (14)：15～24。
- (47) 福岡省二(1975)：徳島県におけるイチゴの作型と生産上の問題点。園芸中四国発表要旨(昭50)
- (48) 阿部泰典・木藤繁樹・川下輝一・福岡省二(1977)：ニンニクの露地早採り栽培に関する研究。徳島農試研報, (15)：1～6。
- (49) 阿部泰典・福岡省二・川下輝一(1978)：ハウスイチゴの受精に関する研究(第2報)。受精後の経過と農薬による受精障害。園芸中四国発表要旨(昭53)
- (50) 阿部泰典・町田治幸・福岡省二・川下輝一(1978)：白いぼキュウリのハウス栽培適応性。徳島農試研報, (16)：6～10。
- (51) 町田治幸・阿部泰典・福岡省二・新居清(1978)：促成ナスの整枝に関する研究。徳島農試研報, (16)：11～18。
- (52) 阿部泰典・福岡省二(1979)：断根によるイチゴ「芳玉」の花芽分化促進法。徳島農試研報, (17)：1～4。
- (53) 福岡省二・川下輝一(1979)：促成イチゴの生産安定に関する研究(第4報)。電照利用における電照方法について。園芸中四国発表要旨(昭54)

- (54) 町田治幸・安瀨次郎(1979)：ハクサイのゴマ症に対する品種間差異。園芸中四国発表要旨(昭54)
- (55) 安瀨次郎・阿部泰典(1979)：温度管理がダイコンの花芽分化に及ぼす影響。園芸中四国発表要旨(昭54)
- (56) 町田治幸・阿部泰典・隔山普宣(1981)：昼夜温の組合せが促成栽培ナスの生育・収量・品質に及ぼす影響。徳島農試研報, (19)：1～7。
- (57) 町田治幸(1982)：イチゴポット育苗の現状と問題点。農及園, 57(6)：797～802。
- (58) 川田富雄・町田治幸・阿部泰典・福岡省二・坂口謙二・小川純一・隔山普宣(1982)：地中熱交換暖房方式による施設野菜栽培の実用化に関する研究(第1報)。地中熱交換暖房方式の促成トマト栽培における実用化試験。徳島農試研報, (20)：15～26。
- (59) 町田治幸・隔山普宣・小川純一・坂口謙二・川田富雄(1982)：秋まきトンネルダイコンの生産安定に関する研究(第1報)。換気時期と換気量が花成及び抽台におよぼす影響。園芸秋季発表要旨(昭57)
- (60) 川田富雄・町田治幸(1983)：地中熱交換暖房方式による施設野菜栽培の実用化に関する研究(第2報)促成ナス栽培における地中熱交換暖房方式の実用化試験。徳島農試研報, (21)：1～8。
- (61) 古藤英司・町田治幸・隔山普宣(1983)：春どり背首ダイコンの被覆下栽培における温度管理が花成、抽だいに及ぼす影響。徳島農試研報, (21)：9～15。
- (4) 住友昭利・後藤田栄一(1966)：シクラメンの研究(第2報)。シクラメン種子の発芽発育段階における適温について。徳島農試研報, (8)：31～34。
- (5) 住友昭利・後藤田栄一(1966)：キクの挿木に関する試験。徳島農試研報, (8)：35～37。
- (6) 住友昭利・後藤田栄一(1967)：シクラメンの研究(第3報)シクラメン種子の発芽に及ぼす変温の影響について。徳島農試研報, (9)：44～46。
- (7) 松崎昇・山下喬之(1967)：促成鉄砲ユリの遮光が生育に及ぼす影響について。徳島農試研報, (9)：47～48。
- (8) 住友昭利・後藤田栄一(1968)：シナナンテン栽培における摘葉および摘芯に関する試験。徳島農試研報, (10)：85～91。
- (9) 住友昭利・後藤田栄一(1970)：シクラメン種子の大きさと発芽およびその後の発育との関係について。徳島農試研報, (12)：10～14。
- (10) 前田浩典・住友昭利・後藤田栄一(1975)：ヒオウギの種子発芽温度(ヒオウギに関する研究I)徳島農試研報, (14)：31～32。
- (11) 住友昭利・前田浩典・後藤田栄一(1975)：ヒオウギの花芽分化並びに発育(ヒオウギに関する研究II)徳島農試研報, (14)：33～36。
- (12) 住友昭利・後藤田栄一・前田浩典(1975)：フリージャ促成栽培における再生球(仮称)利用並びに施肥量について。徳島農試研報, (14)：37～42。
- (13) 前田浩典・住友昭利・後藤田栄一・野田靖之(1978)：ヒオウギに関する研究(第3報)。ヒオウギの生育と開花に及ぼす日長と温度の影響。徳島農試研報, (16)：33～37。
- (14) 前田浩典・住友昭利・野田靖之(1978)：ヒオウギに関する研究(第4報)加温開始期が生育および開花に及ぼす影響。徳島農試研報, (16)：38～40。
- (15) 住友昭利・前田浩典(1978)：ヒオウギに関する研究(第5報)ビニールトンネルによる簡易保温がヒオウギの生育開花並びに切花品質

4. 花き科

- (1) 前田知・城浦治男(1954)：花木の自発休眠に関する研究(第1報)自発休眠後期の挿木適期。農及園, 29(11)：91～92。
- (2) 横山精治・後藤田栄一(1960)：自然交雑による鹿の子と山百合の種間雑種について。徳島農試研報, (5)：36～38。
- (3) 横山精治・後藤田栄一(1962)：自然交雑による鹿の子と山百合の種間雑種について 第2報。徳島農試研報, (6)：42～46。

第2章 研究業績一覧

- に及ぼす影響。徳島農試研報, (16): 41~47。
- (16) 住友昭利・前田浩典(1981): チューリップ促成栽培における球根の冷蔵法および栽培夜温が開花ならびに切花品質に及ぼす影響。徳島農試研報, (19): 8~15。
- (17) 前田浩典・住友昭利(1982): 冷蔵加温電照ギクにおける昼夜温管理が燃料消費および生育開花に及ぼす影響。徳島農試研報, (20): 27~36。
- (18) 前田浩典・住友昭利(1982): ヒオウギに関する研究(第6報)。茎ざし繁殖とさし木苗の栽培適応性。徳島農試研報, (20): 37~42。
- 14。
- (3) 豊田壮逸(1957): 那賀平野における施肥改善について。徳島農試研報, (2): 14~16。
- (4) 熊谷栄・豊田壮逸(1957): 湿田における地下水水位低下操作が水稻に及ぼす影響について。徳島農試研報, (3): 1~2。
- (5) 熊谷栄(1957): 苦土欠乏土壤に関する調査研究。低位生産地調査事業10周年記念論文集: 803~812。
- (6) 熊谷栄(1959): 開拓地土壤の概要—徳島県。開拓地土壤調査事業10周年記念論文集: 330~333。
- (7) 後藤恭(1959): 和泉砂岩及び結晶片岩の風化土の若干の化学性について。開拓地土壤調査事業10周年記念論文集: 422~425。
- (8) 後藤恭・松岡正信(1960): 秋落田における特殊団子肥料等の効果に関する研究。徳島農試研報, (5): 10~12。
- (9) 豊田壮逸・吉川治(1960): 水稻に対する窒素施用法の一考察。徳島農試研報, (5): 13~15。
- (10) 後藤恭(1960): 水稻に対する苦土と珪酸。農及園, 35(12): 1933~1936。
- (11) 後藤恭・堀千代二・松岡正信(1962): 温州蜜柑園の土壤の理化学性と収量の関係。徳島農試研報, (6): 1~3。
- (12) 松岡正信・後藤恭(1962): 水田土壤の理化学性と深耕の効果。徳島農試研報, (6): 4~5。
- (13) 豊田壮逸(1962): 徳島県佐那河内の水稻高位収穫に関する考察。徳島農試研報, (6): 7~9。
- (14) 松岡正信・後藤恭(1968): 水稻に対する珪カル連用の効果について。徳島農試研報, (10): 15~20。
- (15) 後藤恭(1969): 水田の土壤管理と施肥法の改善。農及園, 44(2): 365~368。
- (16) 堀千代二・後藤恭(1969): ウメおよびクリ園の土じょう適地について。徳島農試研報, (11): 20~24。
- (17) 松岡正信・後藤恭(1972): そさいに対する磷酸肥料の適量に関する研究。徳島農試研報, (13): 1~5。
- (18) 山本英記・丸尾包治・後藤恭(1972): タケノコ園に関する土壤肥科学的研究(第1報)。徳

5. 旧園芸部のうち果樹関係

- (1) 桂澄人(1936): 柑橘幼樹ノ根系調査(其一), 徳島農事試特別報告, (2)
- (2) 桂澄人(1938): 柑橘幼樹ノ根系調査(其二), 徳島農事試特別報告, (3)
- (3) 桂澄人(1938): 青梨ノ外観ニ及ボス石灰ホルド一液ノ影響。徳島農事試特別報告, (4)
- (4) 桂澄人(1941): 柑橘砧木の発根性について。徳島農事試特別報告, (6)
- (5) 桂澄人(1941): 柑橘砧木の発根性について。農及園, 16(6): 24~30。
- (6) 桂澄人(1953): 梨の品種改良試験成績。徳島農試研報, (1): 30~31
- (7) 前田知・多田良行・阿部元七・吉岡正八(1953): 柿果の脱渋貯蔵並びに黒変防止について。徳島農試研報, (1): 26~29。
- (8) 前田知(1954): 柿炭そ病菌の冬葉越冬について。園芸学会昭和29年秋季号。
- (9) 前田知・吉岡正八(1955): 柿の断根に関する観察。農及園, 30(4): 593~594。

6. 農芸化学科

- (1) 水口博行・松岡正信(1952): 裸麦に対する熔成磷肥効試験について。中国四国農研, (1): 87~89。
- (2) 熊谷栄・後藤恭・堀千代二・松岡正信・中野隆司(1957): 水稻の珪酸吸収及び珪カルの肥効の年次差について。徳島農試研報, (2): 13~

- 島農試研報(13)：6～11。
- (19) 後藤恭・山本英記・川口公男・黒島忠司・井内晃(1974)：レンコン栽培に関する土壤肥料学的研究 (I)。土肥関西講要 (昭50), (21):73。
- (20) 川口公男・山本英記・黒島忠司・井内晃(1975)：徳島県畑地土壤の生長有効水分に関する研究 (第1報)。徳島農試研報, (14)：43～47。
- (21) 山本英記・美馬克美・川口公男・後藤恭(1977)：ハスの養分吸収量。徳島農試研報, (15)：7～14。
- (22) 美馬克美(1977)：徳島県におけるカンショの亜鉛欠乏。徳島農試研報, (15)：15～20。
- (23) 川口公男・山本英記・黒島忠司・川尻啓介・松岡正信(1977)：徳島県におけるコンニャクの亜鉛欠乏。徳島農試研報, (15)：63～66。
- (24) 黒島忠司・糸瀬貞義・円原一寛・久保田増栄(1977)：四国地域における農林畜産廃棄物の有効利用。実用化技術レポート(昭52), (59)：1～35。
- (25) 黒島忠司・福岡省二・井内晃・永井洋三(1978)：おが屑・牛ふん尿混合物の堆肥化(第1報)。徳島農試研報, (16)：48～57。
- (26) 黒島忠司・大江哲・豊田壮逸(1978)：おが屑・牛ふん尿混合物の堆肥化(第2報)。徳島農試研報, (16)：58～65。
- (27) 黒島忠司(1978)：地力増強のためのおが屑堆肥 I。農及園, 53(6)：761～765。
- (28) 黒島忠司(1978)：地力増強のためのおが屑堆肥 II。農及園, 53(7)：910～914。
- (29) 黒島忠司(1978)：地力増強のためのおが屑堆肥 III。農及園, 53(8)：1007～1010。
- (30) 黒島忠司・井内晃・福岡省二(1979)：おが屑堆肥の有効利用(第1報)。徳島農試研報, (17)：5～19。
- (31) 川口公男・丸尾包治・後藤恭(1979)：タケノコ園に関する土壤肥料学的研究(第2報)。徳島農試研報, (17)：20～24。
- (32) 川口公男・岡田俊美・丸尾包治(1980)：タケノコ園に関する土壤肥料学的研究(第3報)。徳島農試研報, (18)：6～11。
- (33) 井内晃・山本英記・川口公男・黒島忠司(1980)：葉色によるイタリアン・ライグラス葉中の硝酸態窒素濃度の推定。徳島農試研報, (18)：12～15。
- (34) 黒島忠司・早野恒一(1981)：土壤中のフォスフォルバパーゼCの活性。土肥講要(昭56), 27:173。
- (35) 川口公男・岡田俊美・後藤恭・福良充雄(1981)：イブキ栽培の土壤適地と養分収奪量。徳島農試研報, (19)：16～20。
- (36) 林甚太郎・川口公男・岡田俊美(1982)：造成田における水稻, 裸麦に対する三要素および堆肥の連年施用効果。徳島農試研報, (20)：43～48。
- (37) 黒島忠司・山田真也(1982)：おが屑堆肥の有効利用(第2報)。徳島農試研報, (20)：49～62。
- (38) 黒島忠司・早野恒一(1982)：Phospholipase C activity in soil. Soil Sci. Plant Nutr., 28(4)：535～542。
- (39) 早野恒一・黒島忠司・大村裕頭・室井栄一(1983)：トマト育苗床土のプロテイナーゼ, フォスファターゼおよびグリコシターゼ活性について。土肥誌, 54：331～334。
- (40) 黒島忠司・中野隆司(1983)：おが屑・樹皮の種類と生育阻害 第1報。生物検定による生育阻害について。土肥講要(昭58), (29)：121。
- (41) 川口公男・後藤恭(1983)：阿讃山地における新規造成草地土壤の生長有効水分の特徴と畑地かんがい効果。徳島農試研報(21)：16～21。

7. 病虫害科 (病害)

- (1) 青柳寅雄(1932)：柑橘煤点病と其薬剤散布適期に関する研究。徳島県立農事試験場
- (2) 青柳寅雄(1933)：楊梅を寄主とする白藻病に就て。日園雑, 45(2)：4 pp.
- (3) 青柳寅雄(1934)：菟薺白絹病に就て。大日本農会報, (589)：10pp.
- (4) 青柳寅雄・鎌田衛(1935)：石灰ボルドー液の胡瓜生育並に収量に及ぼす影響。病虫雑, 22(1)：47～50。
- (5) 青柳寅雄(1936)：栗胴枯病に関する研究。徳島農事試特別報告, (1)
- (6) 佐々木成則・石井博(1952)：稲白葉枯病抵抗性品種導入に関する研究(予報), (講要)。日植病報, 17(1)：42。

第2章 研究業績一覧

- (7) 石井博(1952)：麦類赤黴病の分生孢子飛散と第2次伝染。中国四国農研, (1)：45～47。
- (8) 石井博・小山弘(1952)：麦類赤黴病の分生孢子飛散と第2次伝染。農及園, 27(3)：397～398。
- (9) 佐々木成則(1953)：稲白葉枯病抵抗性品種導入に関する研究(講要)日植病報, 17(3～4)：154。
- (10) 佐々木成則・石井博・柏木弥太郎(1953)：セレサン石灰の稲熱病防除効果に関する研究。セレサン石灰の稲熱病防除効果比較試験。中国四国農研, (3)：19～20。
- (11) 佐々木成則・石井博・柏木弥太郎(1953)：セレサン石灰の稲熱病防除効果に関する研究。セレサン石灰の薬害に関する試験。中国四国農研, (3)：25～26。
- (12) 佐々木成則・石井博・柏木弥太郎(1953)：セレサン石灰の稲熱病防除効果に関する研究。セレサン石灰による白葉枯病防除試験, 中国四国農研, (3)：39。
- (13) 石井博・柏木弥太郎(1953)：本邦における麦類赤黴病の流行機構に関する研究(第1報)(講要)。日植病報, 17(3～4)：160。
- (14) 石井博・柏木弥太郎(1953)：麦類赤黴病の第1次伝染と稲株並びに防除に関する一知見(講要)。日植病報, 18(1～2)：89。
- (15) 石井博・柏木弥太郎・佐々木成則(1953)：本邦における麦類赤黴病の流行機構に関する研究(第1報)。徳島農試研報, (1)：10～16。
- (16) 佐々木成則・柏木弥太郎・石井博(1953)：ダイコンバイラス病防除に関する研究(第1報)。徳島農試研報, (1)：36～39。
- (17) 石井博(1954)：麦赤黴病の流行と気象。植防, 8(4)：3～8。
- (18) 石井博・柏木弥太郎(1954)：ダイコンバイラス病と前作との関係, 土壌PHの推移とダイコンバイラス罹病度との関係。(講要)。日植病報, 19(1～2)：72。
- (19) 石井博・柏木弥太郎(1955)：麦類赤黴病の防除に関する二、三の知見(講要)。日植病報, 19(3～4)：162～163。
- (20) 石井博(1955)：本邦における麦類赤かび病の流行機構に関する研究(第3報)発生型とその予察(I)講要。日植病報, 20(2～3)：108。
- (21) 石井博・谷幸泰(1956)：稲紋枯病の発生推移に関する二、三の知見(講要)。日植病報, 20(4)：191～192。
- (22) 石井博・谷幸泰(1956)：稲紋枯病に関する研究(1), 稲紋枯病に対するCreosot oilの効果(講要)。日植病報, 21(2～3)：103～104。
- (23) 石井博(1957)：水稻早期栽培における稲紋枯病の収量構成に及ぼす影響(講要)。日植病報, 22(1)：7。
- (24) 石井博・岡田一一(1957)：稲紋枯病に対するCreosot oilの効果(第2報)(講要)。日植病報, 22(1)：53～54。
- (25) 石井博(1957)：水稻早期栽培における稲紋枯病の収量構成に及ぼす影響。徳島農試研報, (2)：16～19。
- (26) 石井博・稲木守(1957)：ツーツェットの稲紋枯病防除効果に関する研究。生石灰加用ツーツェットの稲紋枯病防除効果比較試験, 四国農研, (2)：18～19。
- (27) 佐々木成則・片島由雄・柏木弥太郎(1957)：ツーツェットの稲紋枯病防除効果に関する研究。ツーツェットの濃度および散布回数と稲紋枯病防除効果に関する試験。四国農研, (2)：8～9。
- (28) 石井博・柏木弥太郎(1958)：水稻品種の稲紋枯病に対する耐病性の機作(予報)(講要)。日植病報, 22(1)：5。
- (29) 佐々木成則・石井博・柏木弥太郎(1958)：小銹病に対する石灰硫黄合剤の防除効果に関する試験。四国農研, (4)：7～8。
- (30) 石井博・柏木弥太郎(1959)：水稻早期栽培に伴う病害の流行機構に関する研究 第1報。稲紋枯病。徳島農試研報, (4)：11～20。
- (31) 石井博・川尻啓介(1959)：麦類赤黴病の分生孢子形成と栄養条件(講要)。日植病報, 24(1)：51。
- (32) 石井博・川尻啓介(1959)：麦類赤黴病の分生孢子形成と栄養条件(II)(講要)。日植病報, 24(1)：11。
- (33) 石井博(1959)：麦類赤黴病の流行とその防除法。農及園, 35(5)：821～824。
- (34) 佐々木成則・柏木弥太郎(1960)：有機水銀剤

- の散布時期と稲クビ、シコウイモチ病の防除について。四国農研, (7): 56~64。
- (35) 柏木弥太郎(1960): 水稻穂枯症に関する研究, 第1報。秋落水田における晩期追肥と有機水銀剤散布が穂枯症および収量に及ぼす影響。徳島農試研報, (5): 16~19。
- (36) 石井博・川尻啓介(1960): ムギ類赤徴病の流行機構に関する研究(第10報)。潮風の本病に及ぼす影響(講要)。日植病報, 25(5): 225。
- (37) 石井博・谷幸泰・稲木守(1960): レンコン腐敗病の防除に関する研究。石灰窒素とマンガ肥料の併用効果(講要)。日植病報, 25(1): 24。
- (38) 石井博・片島由雄(1960): レンコン腐敗病と土壌 Eh との関係(講要)。日植病報, 25(1): 56。
- (39) 石井博・川尻啓介(1961): ムギ類赤徴病の流行機構に関する研究(第11報)。潮風の本病に及ぼす影響(2)(講要)。日植病報, 26(2): 53。
- (40) 石井博(1961): ムギ類赤徴病と流行機関に関する研究。病虫発生特別報告(8), 徳島農試特別報告, (3)。
- (41) 石井博・川尻啓介(1962): ムギ類赤徴病に対する界面活性剤加用散布薬剤の防除効果(講要)。日植病報, 27(5): 260。
- (42) 石井博・川尻啓介(1962): キュウリの蔓枯病併発細菌性病害と薬剤防除に関する知見(講要)。日植病報, 27(2): 69。
- (43) 柏木弥太郎・佐々木成則・平井篤造(1964): 稲縞葉枯病の細胞内封入体について 第1報。2, 3の感染植物の封入体と封入体による診断(講要)。日植病報, 29(2): 73。
- (44) 柏木弥太郎・佐々木成則・平井篤造(1964): イネくろすじ萎縮病罹病稲の細胞の変異と封入体の染色性(講要)。日植病報, 29(5): 270。
- (45) T. Hiraf, N. Suzuki, I. Kimura, M. Nakazawa, and Y. Kashiwagi(1964): Large Inclusion Bodies Associated with Virus Diseases of Rice. *Phytopathology*. 54(3): 367~368。
- (46) 山本勉・川尻啓介(1964): *Rhizoctonia* 菌によるシロウリの実腐れについて(講要)。日植病報, 29(2): 63。
- (47) 山本勉・片島由雄・川尻啓介(1965): 畦畔散
- 布機によるイネ, ムギ主要病害の防除効果に及ぼす展着剤加用量の影響(講要)。日植病報, 30(2): 106。
- (48) 松井千秋・柏木弥太郎・日比野啓行・林隆治・藤沢一郎(1965): イネ縞葉枯病の結晶封入体の微細構造(講要)。日植病報, 30(5): 298。
- (49) 柏木弥太郎(1966): イネくろすじ萎縮病イネの細胞の異常と封入体の染色性(講要)。日植病報, 32(3): 168~170。
- (50) 柏木弥太郎・佐々木成則(1966): イネ縞葉枯病罹病植物の細胞封入体について(1)。徳島農試研報, (8): 21~24。
- (51) 柏木弥太郎(1966): イネくろすじ萎縮病罹病イネの細胞の異常と封入体の染色性。徳島農試研報, (8): 25~26。
- (52) 山本勉(1966): 施設野菜病害と防ぎ方 ハウストンネル栽培のナス, ピーマン。植防, 20(10): 19~21。
- (53) 山本勉・川尻啓介(1966): コンニャク葉枯病の伝播様相と暴風雨に関連した薬剤防除の時期について(講要)。日植病報, 32(2): 98。
- (54) 山本勉・片島由雄・川尻啓介(1967): 畦畔散布機による病害防除効果と展着剤加用量との関係について。徳島農試研報, (9): 35~40。
- (55) 山本勉・川尻啓介(1967): コンニャク葉枯病の防除について。四国植防研, (2): 61~72。
- (56) 山本勉・川尻啓介(1967): 徳島県下におけるコンニャク病害の発生と被害について。徳島農試研報, (9): 27~34。
- (57) 山本勉・川尻啓介・酒井勇夫・福西務(1968): イネ紋枯病防除に対する広巾散布用動力噴霧機の使用方法について(講要)。日植病報, 34(3): 191。
- (58) 山本勉・川尻啓介・酒井勇夫・福西務(1968): イネ紋枯病防除に対する広巾散布動力噴霧機の使用方法について。徳島農試研報, (10): 21~28。
- (59) 山本勉・福西務(1968): ナス黒枯病の発生に及ぼす環境条件について(講要)。日植病報, 34(5): 301~302。
- (60) 山本勉・川尻啓介(1968): カスガマイシンの

第2章 研究業績一覧

- トマト葉かび病防除効果について (講要)。日植病報, 34(5): 392。
- (61) 山本勉(1968): キュウリ緑斑モザイク病の発生と被害に及ぼす影響。四国植防研, (3): 47~57。
- (62) 山本勉(1969): ナス斑点細菌病の発生に及ぼす環境条件と防除薬剤 (講要)。日植病報, 35(5): 383~384。
- (63) 山本勉・福西務(1969): Rhizoctonia 菌によるネギ苗立枯病の薬剤防除。四国植防研, (4): 55~58。
- (64) 山本勉・川尻啓介(1969): カスガマイシンのトマト葉かび病防除効果とその解析。徳島農試研報, (11): 25~32。
- (65) 山本勉・福西務(1970): イチゴ炭そ病について (講要)。日植病報, 36(3): 165~166。
- (66) 山本勉・川尻啓介(1970): シロウリの実腐れとその防除。四国植防研, (5): 71~78。
- (67) 山本勉(1970): 徳島県におけるハウス栽培のキュウリおよびナスの病害と防除。植防, 24(7): 4~7。
- (68) 山本勉(1971): 徳島県におけるキュウリ緑斑モザイクウイルス病の防除。植防20周年記念誌, 323~325。
- (69) 山本勉(1971): イチゴの新病害「炭そ病」。植防, 25(2): 21~24。
- (70) 福西務・須藤真平・山本勉(1971): ウリ類疫病による被害の実態。四国植防研, (6): 95~100。
- (71) 山本勉・福西務(1972): バリダシンによるイネ紋枯病の防除とくに散布時期, 回数, 間隔について。四国植防研, (7): 13~20。
- (72) 山本勉, 上原等(1972): ネギ, タマネギの苗立枯病とその防除。植防, 26(4): 19~22。
- (73) 柏木弥太郎・田村礼二(1973): ハス褐斑病(新称)について(1) 発生と病原菌 (講要)。日植病報, 39(3): 202。
- (74) 山本勉・川尻啓介(1973): 水和剤 (粉体) の少量散粉によるハウス病害の防除。四国植防研, (8): 29~36。
- (75) 福西務・山本勉・須藤真平(1973): キクさび病に対する薬剤防除について。四国植防研, (8): 37~42。
- (76) 福西務・加々美好信(1974): 非水銀剤による種もみ消毒効果。四国植防研, (9): 105~108。
- (77) 柏木弥太郎(1974): ハス褐斑病について(2) 薬剤防除 (講要)。日植病報, 40(3): 219。
- (78) 山本勉(1974): ナス褐斑細菌病の生態と防除。植防, 28(11): 31~34。
- (79) 生越明・福西務・酒井隆太郎(1974): エンドウのすそ枯れ症状に関する研究。エンドウからの *Aphanomyces euteiches* の分離とエンドウに対する病原性 (講要)。日植病報, 40(3): 194。
- (80) 福西務(1974): コルディリーネの疫病 (新病害) (講要)。日植病報, 40(2): 138。
- (81) 柏木弥太郎(1975): ハス褐斑病について(3) 発生の生態 (講要)。41(3): 266。
- (82) 福西務・須藤真平・山下定利・岡田小太郎・生越明・酒井隆太郎(1975): エンドウすそ枯症状に関する研究(2) 徳島県における発生生態と土壌検診 (講要)。日植病報, 41(3): 273。
- (83) 山本勉・川尻啓介(1975): イチゴ果実の病害防除効果に及ぼす液剤の散布量と展着剤加用量の影響。四国植防研, (10): 35~40。
- (84) 山本勉・福西務・川尻啓介(1975): ハウス栽培のナス黒枯病に関する研究 (第1報) ナス黒枯病の発生消長および発生環境。徳島農試研報, (14): 49~58。
- (85) 福西務・山本勉(1975): ハウス栽培のナス黒枯病に関する研究 (第2報) ナス黒枯菌の生理生態および伝染経路。徳島農試研報, (14): 59~74。
- (86) 福西務・山本勉(1975): ハウス栽培のナス黒枯病に関する研究 (第3報) ナス黒枯病の薬剤防除とその効果の解析。徳島農試研報, (14): 75~82。
- (87) 山本勉(1975): キュウリ緑斑モザイク病に関する研究とくに発生環境, 伝搬方法ならびに防除法について。徳島農試特別報告, (5)
- (88) 福西務・山本勉(1975): コルディリーネの疫病の発生。四国植防研, (10): 41~48。
- (89) 福西務・生越明・黒島忠司・美馬克美・山本英記(1976): 徳島県下で発生したサツマイモかいよう病の病徴, ほ場環境および薬剤防除 (講要)。日植病報, 42(3): 339。

- (90) 福西務・生越明・酒井隆太郎(1976)：徳島県下におけるエンドウ“すそ枯れ症状”をひきおこす *Aphanomyces euteiches* DRECHSLER. 日植病報, 42(1): 53~55.
- (91) 福西務(1977)：*Stemphylium* 属菌によるニンニクの葉枯病(新称)(講演)。日植病報, 43(1): 86.
- (92) 柏木弥太郎・山本勉(1977)：冬ダイコンに発生する横縞症について(予報)(講要)。日植病報, 43(3): 343.
- (93) 富永時任・西山幸司・山本勉(1977)：*Pseudomonas cichorii* によるナスの褐斑細菌病。日植病報, 43(5): 569~574.
- (94) 柏木弥太郎(1977)：ハス褐斑病の発生生態と防除。徳島農試研報, (15): 21~32.
- (95) 福西務(1977)：土壌くん蒸剤のマルチ畦内消毒による土壌病害防除(1)クロルピクリンくん蒸剤による土壌消毒の効果と薬害に関する基礎的調査。徳島農試研報, (15): 33~42.
- (96) 山本勉・金磯泰雄(1977)：微粉剤の少量散布(フローグスト)によるハウス病害虫の防除。徳島農試研報, (15): 43~54.
- (97) 山本勉・金磯泰雄・須藤真平・山下定利・岡田小太郎(1978)：徳島県における昭和51年度箱育苗のごま葉枯病多発生原因と薬剤防除。四国植防研, (12): 7~14.
- (98) 金磯泰雄・柏木弥太郎(1978)：オオムギ斑葉病に対する種子消毒の効果。四国植防研, (13): 43~48.
- (99) 福西務(1978)：ハウレンソウ根腐れ症状株とその土壌から分離される病原菌(講要)。日植病報, 44(1): 86.
- (100) 西山幸司・山本勉・梅川学・江塚昭典(1978)：*Pseudomonas viridiflava* によるトマト黒斑細菌病(新称)(講要)。日植病報, 44(3): 378~379.
- (101) 福西務(1978)：ナス黒枯病防除薬剤の効力低下(予報)(講要)。日植病報, 44(3): 404.
- (102) 山本勉・金磯泰雄(1978)：水管理とくに夏季の落水がハス腐敗病の発生におよぼす影響。四国植防研, (12): 39~42.
- (103) 山本勉・金磯泰雄(1978)：スイカ台ユウガオの根腐病。徳島農試研報, (16): 66~68.
- (104) 金磯泰雄(1979)：オオムギあかぎ二条の種子消毒法。四国植防研, (4): 19~24.
- (105) 西山幸司・山本勉・梅川学・江塚昭典(1979)：*Pseudomonas viridiflava* によるトマト黒斑細菌病。日植病報, 45(2): 221~227.
- (106) 西山幸司・福西務・寺田孝重・江塚昭典(1979)：*Xanthomonas carotae* によるニンジン斑点細菌病の本邦における初発生。日植病報, 45(5): 683~688.
- (107) 山本勉(1979)：べと病菌によるハナヤサイの“入れ墨”症状。四国植防研, (14): 43~44.
- (108) 山本勉・川尻啓介・金磯泰雄(1979)：薬剤散布の時期・間隔・病斑摘去などが病害防除効果に及ぼす影響。徳島農試研報, (17): 25~37.
- (109) 松尾卓見・宮下秀子・福西務(1979)：徳島県下に多発したサツマイモかいよう病の病原 *Fusarium* 菌(講要)。日植病報, 45(1): 80.
- (110) 山本勉・金磯泰雄(1981)：ハウス内稲わら施用によるイチゴ灰色かび病の防除。農及園, 56(1): 42~44.
- (111) 金磯泰雄・酒井勇夫(1981)：おが屑堆肥の施用と土壌病害(第1報)おが屑堆肥に混入する主要土壌病原菌の動き。四国植防研, (16): 37~42.
- (112) 金磯泰雄・山本勉(1981)：稲わら施用がハウス内の環境ならびに病害の発生に及ぼす影響。徳島農試研報, (19): 21~30.
- (113) 金磯泰雄・黒島忠司(1982)：おが屑堆肥の施用と土壌病害(第2報)おが屑堆肥の連用がダイコン根部黒変症の発生に及ぼす影響。四国植防研, (17): 51~63.
- (114) 金磯泰雄(1982)：ダイコン根部黒変症(横しま)に関する研究。総合助成報告書:75~98.
- (115) 金磯泰雄・山本勉(1982)：ハウス内稲わら施用におけるわらの吸湿条件ならびに作物の生育, 収量と2, 3病害の発生に及ぼす影響。徳島農試研報, (20): 6~14.
- (116) 金磯泰雄・柏木弥太郎(1983)：ダイコン幼苗期の根部黒変と立枯について(第1報)発生原因と薬剤防除。四国植防研, (18): 29~38.
- (117) 山本勉・金磯泰雄(1983)：イチゴうどんこ病の発生生態と防除に関する研究。徳島農試特別報告, (6): 1~69.

第2章 研究業績一覧

(118) 金磯泰雄(1983)：ムギうどんこ病の冬季多発生と薬剤防除の効果。徳島農試研報, (21)：27～33。

虫 害

- (1) 徳島県立農事試験場(1922)：藍作害虫に関する調査。徳島県立農事試験場
- (2) 徳島県立農事試験場(1926)：梨の姫心喰虫駆除予防試験成績予報。徳島県立農事試験場
- (3) 青柳寅雄(1938)：栗実虫モモゴマゲラノメイガ防除成績。徳島農事試特別報告, (5)。
- (4) 坪井武夫(1950)：徳島に於けるサンカメイチュウの発生予察に関する研究(I), 第1化期の発生と冬季の気象との相関及び予察法について。応昆, 6(4)：163～171。
- (5) 坪井武夫・柏木弥太郎・野口義弘(1952)：ルビーロームシの寄生蜂ルビーアカヤドリコバチ (*Anicetus ceroplastes* ISII) 導入に関する2, 3の知見。中国四国農研, (1)：66～68。
- (6) 以西信夫(1953)：稲葉の損失が生育収量に及ぼす影響。徳島農試研報, (1)：17～22。
- (7) 坪井武夫・以西信夫・野口義弘(1953)：BHCによるエンドウゾウムシ防除に関する二, 三の知見(予報)。中国四国農研, (4)：41～42。
- (8) 坪井武夫(1954)：サンカメイチュウの発生予察に関する研究(II)。発蛾時期及び発蛾量相互の関係について。中国四国農研, (5～6)：127。
- (9) 坪井武夫・野口義弘(1954)：ニカメイチュウ第1化期後期発蛾量の予察。中国四国農研, (5～6)：125～126。
- (10) 小林尚(1954)：苗代における薬剤散布が昆虫相の変動に及ぼす影響について。応動昆講演要旨：12。
- (11) 坪井武夫(1955)：徳島におけるサンカメイチュウの発生型について。応昆, 11(4)：150～155。
- (12) 坪井武夫・野口義弘(1955)：サンカメイチュウによる稲の被害調査法に関する研究。徳島農試特別報告, (1)。
- (13) 小林尚(1955)：殺虫剤散布による水田昆虫相の変動。応動昆講演要旨：17～18。

- (14) 小林尚(1956)：殺虫剤散布による昆虫相の変動について(3)。応動昆講演要旨：22～23。
- (15) 小林尚・野口義弘(1956)：イネクロカメムシ防除法の研究(第1報)イネクロカメムシのparaチオンに対する抵抗性について。応昆, 12(2)：82～85。
- (16) 小林尚(1956)：稲作害虫に対する殺虫剤散布必要度合の予想方法確立に関する研究(1)。予察灯のニカメイガ誘殺数による被害率の予想方法について。四国農研, (1)：169～71。
- (17) 坪井武夫(1956)：土壤中のBHCが作物の生育および収量に及ぼす影響。応動昆シンポジウム講演要旨：38～41。
- (18) 坪井武夫・小林尚・以西信夫・野口義弘(1956)：土壤中のBHCが作物の生育, 収量に及ぼす影響。応昆, 12(4)：177～189。
- (19) 小林尚・野口義弘(1957)：水稲の早晩期栽培とニカメイガの産卵選択性との関係。徳島農試研報, (2)：19～21。
- (20) 小林尚(1957)：殺虫剤散布による水田昆虫相の変動(4)殺虫剤散布後のツマグロヨコバイ増加の原因について。応動昆講演要旨：20。
- (21) 小林尚・野口義弘(1957)：ディブテレックスのニカメイチュウ防除効果。徳島農試研報, (3)：10～11。
- (22) 以西信夫・山下定利(1957)：ニカメイチュウ第2化期発蛾最盛日の予察について。徳島農試研報, (3)：12～14。
- (23) 小林尚・野口義弘(1957)：イネクロカメムシ防除法の研究(II)。イネクロカメムシのBHCに対する抵抗性について。応動昆, 1(1)：36～40。
- (24) 小林尚(1957)：新白塗剤による柑橘のゴマゲラカミキリの産卵防止。応動昆, 1(4)：224～253。
- (25) 小林尚(1957)：農薬の新しい使用Settingに関する研究(第1報)。農及園, 32(1)：63～64。
- (26) 小林尚(1958)：殺虫剤散布による昆虫相の変動(5)。水田におけるクモの役割について。応動昆講演要旨：14。
- (27) 小林尚(1958)：稲作害虫に対する殺虫剤散布必要度合の予想方法確立に関する研究(第2報)予察灯の誘殺力の比較並びに被害率発

- 生子察式の適用範囲の拡張。四国農研, (3): 97~99。
- (28) 小林尚(1958): 農薬の新しい使用法 Setting に関する研究(第2報)。四国農研, (3): 100~102。
- (29) 以西信夫(1959): サンカメイガの発生と被害の変動及び被害面積との関係。徳島農試研報, (4): 21~25。
- (30) 以西信夫・山下定利(1959): ニカメイチュウ第2化期発蛾最盛日の予察について。四国農研, (5): 85~87。
- (31) 小林尚(1959): 殺虫剤散布による水田昆虫相の変動に関する研究(VI)。殺虫剤散布によるクモ類の減少とツマグロヨコバイおよびウンカ類の増加の薬剤による差異。応動昆講演要旨: 21。
- (32) 小林尚(1960): 殺虫剤散布による水田昆虫相の変動に関する研究(VII)。殺虫剤散布によるクモ類の減少とツマグロヨコバイおよびウンカ類の増加の殺虫剤の種類および散布時期による差異。応動昆講演要旨: 8~9。
- (33) 小林尚(1960): 天敵利用と薬剤防除とどのように調和させるか、薬剤散布と害虫の異常な増殖。応動昆シンポジウム講演要旨: 61~64。
- (34) 小林尚(1960): 水田天敵。植防, 14(11): 31~34。
- (35) 以西信夫・山下定利(1960): ニカメイガの幼虫寄生蜂について。四国農研, (6): 109~112。
- (36) 藤田育資・以西信夫・山下定利(1960): 水稲早期栽培のニカメイチュウ防除時期について。徳島農試研報, (5): 20~22。
- (37) 小林尚(1961): ニカメイチュウ防除の殺虫剤散布がウンカ、ヨコバイ類の生息密度に及ぼす影響に関する研究。徳島農試特別報告, (3) 発生予察特別報告, (6)。
- (38) 以西信夫・山下定利(1962): 徳島県下におけるニカメイチュウおよびサンカメイチュウの発生傾向について。徳島農試研報, (6): 13~14。
- (39) 小林尚(1962): 徳島県下で大発生したタケの新害虫。植防, 16(2): 1~6。
- (40) 小林尚・丸尾包治・岡部文・杉本喜則(1962): タケアツバに関するこれまでの知見と昭和36年度の防除。徳島農試研報, (6): 34~41。
- (41) 以西信夫・山下定利(1964): ニカメイチュウの発蛾最盛期予察法について。四国農研, (9): 27~29。
- (42) 谷幸泰(1964): 鳴門地方におけるサツマイモ害虫の発生予察および防除でんまつ。植防, 18(9): 25~27。
- (43) 永井洋三・以西信夫(1965): 徳島県内予察灯の誘殺状況にみられる2, 3の害虫発生の地域差。応動昆講演要旨: 13。
- (44) 永井洋三・山下定利(1966): 徳島県下におけるイネ縞葉枯病の後期発病とその防除。四国植防研, (1): 6~8。
- (45) 永井洋三・佐々木成則・以西信夫・日和田太郎(1966): MEP乳剤浸漬によるネダニの防除。関西病虫研, (9): 112~113。
- (46) 以西信夫・日和田太郎(1967): 徳島県におけるツマグロヨコバイのマラソン抵抗性について。応動昆講演要旨: 21。
- (47) 以西信夫・日和田太郎・須藤真平(1967): 徳島県におけるツマグロヨコバイのマラソン抵抗性について。徳島農試研報, (9): 41~43。
- (48) 野口義弘(1967): ネグサレセンチュウの検出方法に関する研究。ミナミネグサレセンチュウ検出法としてのインキュベーション法について。四国植防研, (2): 79~82。
- (49) 山下定利(1968): 徳島県山岳部におけるセジロウンカ、トビイロウンカ生息状況について。四国植防研, (3): 39~42。
- (50) 山下定利・永井洋三(1968): ウンカ類の異常飛来現象に関する研究(第1報) 1966年および1967年の全国各地予察灯におけるセジロウンカ、トビイロウンカの誘殺状況。徳島農試研報, (10): 41~46。
- (51) 永井洋三・山下定利(1968): 昭和41年・42年のウンカ類飛来状況とその考察。応動昆講演要旨: 17。
- (52) 以西信夫(1968): ツマグロヨコバイに寄生するアタマアブ類の発生および寄生状況。徳島農試研報, (10): 35~40。
- (53) 須藤真平(1968): 徳島県板野郡下のニカメイチュウ第2世代被害激甚地における被害実態と栽培慣行。徳島農試研報, (10): 29~34。

第2章 研究業績一覧

- (54) 永井洋三・山下定利(1969)：ウンカ類の異常飛来現象に関する研究(第2報)セジロウンカおよびトビロウンカの日本各地への飛来状況。徳島農試研報, (11)：35～41。
- (55) 以西信夫・谷幸泰(1969)：そ菜害虫に対するランネートの効果。四国植防研, (4)：65～75。
- (56) 以西信夫・柏木弥太郎・谷幸泰(1969)：レンコンおよびイネを加害するイネネクイハムシの発生と防除。四国植防研, (4)：79～86。
- (57) 長江十一(1969)：モモゴマグラノメイガの発生消長と防除(第1報)。徳島農試研報, (11)：33～34。
- (58) 永井洋三・須藤真平・日和田太郎(1970)：徳島県におけるイネツトムシ第2世代の発生消長と薬剤防除。四国植防研, (5)：51～58。
- (59) 小林尚・野口義弘・錦野正臣・須藤真平・池本五郎・長江十一(1971)：稲作害虫に対する殺虫剤散布必要度合の予想方法に関する研究(第3報)ニカメイチュウ防除の殺虫剤散布必要度合の予想。応動昆, 15(3)：121～131。
- (60) 野口義弘(1971)：殺虫剤散布後の降雨がニカメイチュウの防除効果におよぼす影響。応動昆講演要旨, 7。
- (61) 山下定利(1971)：簡易自動式予察燈の作り方。植防, 25(4)：29～30。
- (62) 野口義弘(1972)：殺虫剤散布後の降雨が防除効果に及ぼす影響(第1報)食入ニカメイチュウに対する降雨の影響。徳島農試研報, (13)：17～20。
- (63) 小林尚・野口義弘・日和田太郎・金山嘉久正・丸岡範夫(1973)：水田の節足動物相ならびにこれに及ぼす殺虫剤散布の影響(第1報)水田の節足動物相概観。昆虫, 41(3)：359～373。
- (64) 野口義弘(1973)：水田線虫の検診方法の確立に関する特殊調査。発生予察特別報告, (25)：110～119。
- (65) 小林尚・野口義弘・日和田太郎・金山嘉久正・丸岡範夫(1974)：水田の節足動物相ならびにこれに及ぼす殺虫剤散布の影響(第2報)水田の節足動物群集における種数および生息密度の季節的変動。昆虫, 42(1)：87～106。
- (66) 永井洋三(1975)：イネ縞葉枯病後期発病の感染時期と防除適期。発生予察特別報告, (26)：92～95。
- (67) 柏木弥太郎(1975)：葉いもちとセジロウンカ、トビロウンカの発生との関係。四国植防研, (10)：1～6。
- (68) 野口義弘・谷本温暉(1975)：ハスモンヨトウとネキリムシの生態と防除, ネキリムシ被害実態と経済的被害許容水準。研究成果, (82)：140～149。
- (69) 野口義弘(1976)：ケラ幼虫の発育と各種殺虫剤に対する感受性。四国植防研, (11)：23～28。
- (70) 谷本温暉・野口義弘(1977)：ネキリムシ類の生態と薬剤防除。徳島農試研報, (15)：55～62。
- (71) 小林尚・野口義弘・日和田太郎・金山嘉久正・丸尾範夫(1978)：水田の節足動物相ならびにこれに及ぼす殺虫剤散布の影響(第3報)水田の節足動物群集の組成に及ぼす殺虫剤散布の影響。昆虫, 46(4)：603～623。
- (72) 野口義弘(1978)：徳島県におけるツマグロヨコバイのカーバメイト抵抗性の実態と複合剤による淘汰結果。徳島農試研報, (16)：69～73。
- (73) 田中清・谷本温暉(1978)：ハイマグラノメイガ処女雌成虫による性誘引作用。応動昆講演要旨：3。
- (74) 谷本温暉・田中清・腰原達雄(1978)：ハイマグラノメイガの発育と温度、日長との関係。応動昆講演要旨：26。
- (75) 野口義弘(1979)：殺菌殺虫剤混用による種稈消毒が苗の生育に及ぼす影響。徳島農試研報, (17)：43～47。
- (76) 谷本温暉・須藤真平(1979)：ビニールハウス内の散布薬剤がミツバチの訪花活動に及ぼす影響。徳島農試研報, (17)：38～24。
- (77) 小山光男・野口義弘・玉木佳男(1980)：性フェロモンによるハスモンヨトウの交信攪乱。応動昆講演要旨：7。
- (78) 野口義弘(1980)：性フェロモン利用によるハスモンモトウの防除。徳島県植防30周年記念誌：271～274。
- (79) 谷本温暉(1980)：ハウスキュウリを加害するチビクロバネキノコバエの生態と防除。徳島農試研報, (18)：24～29。
- (80) 谷本温暉・柏木弥太郎(1981)：暖地傾斜草地におけるコオロギ類の発生生態と防除。徳島

農試研報, (19) : 31~37。

8. 環境科

- (1) 永井洋三(1971) : ほうれんそうによる土壌中の有機塩素剤の吸収。応動昆講演要旨(15回) : 17。
- (2) 永井洋三(1972) : アルドリン・ディルドリンの土壌残留および作物による吸収とその対策。徳島農試研報, (13) : 12~16。
- (3) 永井洋三(1973) : ドリン系農薬の土壌残留と野菜の安全栽培対策。農及園, 48(10) : 44~48。
- (4) 永井洋三(1973) : 徳島県における農薬残留対策。植物防疫, 27(10) : 29~30。
- (5) 井内晃・永井洋三・黒島忠司(1978) : ナシにおける有機リン殺虫剤の残留性。徳島農試研報, (16) : 74~82。
- (6) 井内晃・永井洋三・村井敏信・守谷茂雄(1979) : Phosdiphenの光分解。農薬講演要旨(4回) : 241。
- (7) 徳島県(1979) : ガスクロマトグラフ用検出器。公開実用新案公報 : 昭54-107393。
- (8) 近藤平一郎・小黒美樹・田原功・渡義典・高田賢次郎・戸井安治・舟越勉・後藤恭・永井洋三・町田治幸・豊田壮逸(1980) : 食品工場排水放流に伴う環境水の黒変現象について。徳島県公害センター年報, (5) : 128~136。
- (9) 永井洋三(1981) : 農薬分析室の排気装置。農薬誌, 6(2) : 237~238。
- (10) 井内晃・永井洋三・山本滝子・柴田精治・赤井昭雄(1981) : スピードスプレーヤ(SS)のオペレータに対する農薬の付着防止。徳島農試研報, (19) : 38~43。
- (11) 永井洋三(1981) : FPDの特性と改良型リン検出器。農薬残留分析研究会資料集(5回) : 19~20。
- (12) 井内晃(1983) : 防虫・防菌袋の使用が果実の農薬残留に及ぼす影響。徳島農試研報, (21) : 22~26。

9. 経営科

- (1) 鈴江昇・村部幸夫(1959) : 秋落田改善営農試

験について。徳島農試研報, (4) : 26~33。

- (2) 鈴江昇・村部幸夫(1960) : 水田作機械化営農試験について。徳島農試研報, (5) : 1~4。
- (3) 鈴江昇・村部幸夫(1962) : 畑作改善営農試験について。徳島農試研報, (6) : 15~19。
- (4) 井沢忠蔵・鈴江昇(1962) : 省力栽培による麦生産合理化の問題点。四国農研, (8) : 133~138。
- (5) 鈴江昇・矢野明(1962) : 酪農協同化の一事例。四国農研, (8) : 139~142。
- (6) 井沢忠蔵・鈴江昇(1964) : 徳島県における水稲早期栽培の動向とその経営的問題点。四国農研, (9) : 57~60。
- (7) 鈴江昇・久保広章(1964) : 酪農協業営農試験地の総合調査。徳島農試研報, (7) : 30~33。
- (8) 久保広章・矢野明(1966) : ミカン園の共同防除における一考察。徳島農試研報, (8) : 27~30。
- (9) 野田靖之・矢野明(1968) : みかん作経営における共同冷房貯蔵庫の機能と問題点—小松島市榑淵町の一事例について—。徳島農試研報, (10) : 13~102。
- (10) 村部幸夫・矢野明(1968) : 酪農自立経営基準の策定に関する調査研究(第2報) 吉野川下流地帯の酪農自立化の諸条件。徳島農試研報, (10) : 103~112。
- (11) 野田靖之・矢野明(1969) : 徳島県における農業生産と市場対応。成長作物選定指標の研究。徳島農試研報, (11) : 42~47。
- (12) 野田靖之(1971) : 徳島平野の野菜生産と流通の動向。経営通信, (89) : 13~16。
- (13) 長江十一(1972) : 重粘土転換田の大豆栽培。農業技術, 27(8) : 352~354。
- (14) 本庄栄二(1973) : 傾斜草地造成法と投資。経営通信, (97) : 1~3。
- (15) 野田靖之(1975) : 成長作物選定指標の研究(第2報) 徳島県におけるイチゴの流通と生産調査。徳島農試研報, (14) : 83~90。
- (16) 矢野明(1976) : 暖地海岸畑地帯のマルチ栽培技術集団。農及園, 51(1) : 221~224。
- (17) 本庄栄二(1976) : 山地酪農の経済性(中間報告)。関西農経講演要旨(26回) : 55。
- (18) 三宅節(1976) : 労働強度と臨時雇用賃金につ

第2章 研究業績一覧

- いて。徳島県の特産野菜の労働。関西農経講演要旨(26回):44~45。
- (19) 三宅節(1978): 漬物用シロウリの収穫期の労働と今後の方向。徳島農試研報, (16): 83~91。
- (20) 三宅節(1978): 漬物用シロウリの収穫期の労働。生活研究発表要旨(26回):31~35。
- (21) 本庄栄二(1979): 施設果樹の経営経済的評価—徳島県の事例を中心に—。徳島農試研報, (17): 57~69。
- (22) 三宅節(1979): 漬物用シロウリの収穫期の労働と今後の方向。経営通信, (119): 26~29。
- (23) 本庄栄二(1980): 徳島県におけるスタチ作経営の実態と対応。経営通信, (125): 22~25。
- (24) 本庄栄二(1981): スタチの流通実態分析と最適経営規模。徳島農試研報, (19): 44~52。
- (25) 三宅節(1982): ハウスイチゴの品種別経営特性と経済性。経営通信, (134): 1~4。
- (9) 真淵敏治・高橋恒水(1968): 傾斜地機械化発展の実態と現状。徳島農試特別報告, (4): 1~38。
- (10) 真淵敏治・高橋恒水(1968): 早期水稻の機械化について(第2報) 田植の機械化。徳島農試研報, (10): 47~56。
- (11) 真淵敏治・高橋恒水(1969): 水稻機械化作業体系の比較評価に関する研究。徳島農試研報, (11): 66~83。
- (12) 真淵敏治・高橋恒水(1970): 簡易苗代稚苗による機械移植に関する研究(第1報)。徳島農試研報, (12): 24~30。
- (13) 真淵敏治・高橋恒水(1972): 田植機用マット苗の露地育苗について。徳島農試研報, (13): 35~38。
- (14) 真淵敏治・佐竹治男・高橋恒水(1975): 大豆の播種, 収穫機械化試験。徳島農試研報, (14): 91~96。
- (15) 真淵敏治・高橋恒水(1976): 傾斜地用農業機械の研究。農機誌, 37(4): 659~665。
- (16) 原春雄・野本陽一・後藤田栄一(1977): 自脱型コンバインによるビール麦の収穫法。徳島農試研報, (15): 73~77。
- (17) 野本陽一・原春雄(1979): 水田裏作裸麦の早期収穫および乾燥調製の機械化。徳島農試研報, (17): 48~56。
- (18) 野本陽一・川崎健・原春雄(1982): 莖莢付大豆の搬出予乾法(1), 農及園, 57(7): 901~906。
- (19) 野本陽一・原春雄(1982): 種子用自脱型コンバインによる稲麦の採種法。徳島農試研報, (20): 63~76。
- ### 10. 農業機械科
- (1) 真淵敏治・高橋恒水(1957): 傾斜地流下土の畜力揚土機の試作研究。徳島農試研報, (2): 21~22。
- (2) 真淵敏治・高橋恒水(1957): 湿田における耕耘機の比較試験成績。徳島農試研報, (3): 6~9。
- (3) 真淵敏治・高橋恒水(1959): 通風乾燥による早期籾の乾燥について。徳島農試研報, (4): 29~33。
- (4) 真淵敏治・高橋恒水(1960): ドリル播種機による麦の省力多収栽培について。徳島農試研報, (5): 23~26。
- (5) 真淵敏治・高橋恒水(1962): 傾斜地揚土機の試作研究。徳島農試研報, (6): 20~23。
- (6) 真淵敏治・高橋恒水(1964): 乗用トラクタを中心とした水稻直播機械化体系の確立について。徳島農試研報, (7): 20~29。
- (7) 真淵敏治・高橋恒水(1966): コンバイン(普通型)利用上からみた水稻の収穫適期について。徳島農試研報, (8): 7~12。
- (8) 真淵敏治・高橋恒水・玉野光彦(1967): 早期水稻の機械化について(第1報) 田植刈取の機械化。徳島農試研報, (9): 13~19。
- ### 11. 池田分場
- (1) 土井建治郎(1954): 遮光及び密植による大豆品種間の徒長並びに結実について。中国四国農研, 5~6: 54~59。
- (2) 貴田武捷・天野晃・川人浩(1954): 大豆品種分布の実態調査 徳島県の部。農業改良技術資料, (40): 1~26。
- (3) 川人浩(1954): 徳島県におけるたばこ後作陸稲, 馬鈴薯栽培について。関西農経講演要旨(4回)

- (4) 桑野正信・川人浩(1956)：大豆栽培におけるセスの除草効果について。四国農研，(3)：24～25
- (5) 桑野正信・天野晃・川人浩・細川幸之助(1957)：菜種の萎縮及び不稔障害に対する硼素の効果。徳島農試研報，(3)：3～5。
- (6) 天野晃・川人浩・細川幸之助(1957)：菜種の萎縮及び不稔障害に対する硼素の効果。四国農研，(5)：13～15。
- (7) 桑野正信(1959)：陸稲栽培の安定化に関する研究(第1報)陸稲の収量と気象との関係。徳島農試研報，(4)：1～3。
- (8) 桑野正信・川人浩(1959)：陸稲栽培の安定化に関する研究(第2報)陸稲品種のは種期の移動に伴う出穂反応について。徳島農試研報，(4)：4～7。
- (9) 桑野正信・天野晃・長居勝美(1960)：前作麦がタバコの生育・収量に及ぼす影響について。徳島農試研報，(5)：27～30。
- (10) 真淵昭雄・細川幸之助(1969)：徳島県における緑茶栽培の現状と問題点。徳島農試研報，(11)：84～94。
- (11) 川人浩・長居勝美・藤井文明・木藤繁樹・三宅節(1977)：山間傾斜地における畑作複合経営。徳島農試研報，(15)：79～84。
- (12) 細川幸之助・川人浩・長江十一・松岡正信(1980)：栽植密度と施肥量が茶樹の早期成園化におよぼす影響。徳島農試研報，(18)：30～35。
- (13) 川下輝一・浦上好博(1982)：新規造成畑の野菜に対する有機物の施用効果。徳島農試研報，(20)：77～85。
- (14) 細川幸之助・松岡正信・長江十一(1982)：傾斜地新植茶園の敷草が茶樹の生育と土壌侵食に及ぼす影響。徳島農試研報，(20)：86～96。

12. 海南分場

- (1) 松崎昇・安瀬次郎(1972)：大しょうがの促成栽培に関する研究(第1報)栽植密度と地温が生育収量に及ぼす影響について。徳島農試研報，(13)：32～34。

- (2) 松崎昇・安瀬次郎(1978)：大しょうがのハウス栽培に関する研究(第2報)ジベレリン処理が品質収量に及ぼす影響。徳島農試研報，(16)：19～23。
- (3) 福岡省二・古藤英司・隔山普宣(1983)：芳玉イチゴの鉢育苗栽培に関する研究(第1報)鉢育苗における鉢受け時期，花芽分化促進処理開始時期，定植時期，電照方法の検討。徳島農試研報，(21)：34～39。

13. 阿南筍試験地

- (1) 丸尾包治(1962)：孟宗竹の生態に関する研究(第1報)筍の生育過程について。徳島農試研報，(6)：31～33。
- (2) 丸尾包治(1962)：徳島県の孟宗タケノコ栽培。竹，(1)：36。
- (3) 丸尾包治(1966)：孟宗筍施肥試験成績。全国竹の大会講演要旨，(7回)：13～16。
- (4) 丸尾包治(1969)：孟宗タケノコの電熱利用による早出し栽培について。全国竹の大会講演要旨，(10回)：36～40。
- (5) 丸尾包治(1971)：モウソウタケノコの電熱利用による早出し栽培。竹，(10)：27～30。
- (6) 丸尾包治(1971)：徳島県のタケノコの肥培管理上の課題。竹，(10)：27～30。
- (7) 丸尾包治(1975)：孟宗タケノコ栽培。農及園，50(1)：223～237。
- (8) 丸尾包治(1975)：徳島県のたけのこ栽培の問題点。全国竹の大会講演要旨，(16回)：29～31。
- (9) 丸尾包治(1975)：谷合低地部の生産不振について。全国竹の大会講演要旨，(16回)：34～35。
- (10) 丸尾包治(1976)：施肥の濃度障害について。全国竹の大会講演要旨，(18回)：51～53。
- (12) 丸尾包治(1978)：孟宗タケノコの早期出荷に関する研究。徳島農試研報，(16)：24～32。
- (13) 丸尾包治(1980)：孟宗たけのこの黒変症対応と緩効性肥料施用試験について。全国竹の大会講演要旨，(21回)：57～69。

14. 旧藍住分場

- (1) 富岡芳雄(1954)：大根の浸水による被害調査。農及園，29(8)：1035～1036。
- (2) 富岡芳雄(1955)：鳴門市に於ける炭穀地と蔬菜経営。農及園，30(1)：1459～1462。
- (3) 富岡芳雄・新居清(1955)：メロン栽培に於ける堆肥鉢の価値。農及園，30(2)：337～338。
- (4) 富岡芳雄(1956)：胡瓜の側枝別生産力と整枝。園芸発表要旨(昭31)。
- (5) 富岡芳雄(1957)：茄と胡瓜のトンネル栽培法。農及園，33(2)：353～356
- (6) 富岡芳雄・犬伏利治(1957)：胡瓜のベト病・炭疽病に対する薬剤の効果について。徳島農試研報，(2)：11～12。
- (7) 富岡芳雄・新居清(1957)：メロン栽培における堆肥鉢利用の価値について。徳島農試研報，(2)：9～10。
- (8) 富岡芳雄・新居清・犬伏利治(1957)：ナスのトンネル栽培に関する研究。徳島農試研報，(3)：15～18。
- (9) 富岡芳雄(1958)：ナスのトンネル栽培における定植期と開花・着果の関係について。園芸春季発表要旨(昭33)
- (10) 富岡芳雄(1958)：ナスのトンネル栽培に関する研究(第2報)トンネルの管理と開花・着果の関係。園芸秋季発表要旨(昭33)。
- (11) 富岡芳雄(1959)：茄のトンネル栽培法。農及園，34(10)：1551～1554。
- (12) 富岡芳雄(1959)：ナスのトンネル栽培に関する研究(第3報)高温期のビニール被覆が開花・着果におよぼす影響。園芸秋季発表要旨(昭34)。
- (13) 富岡芳雄・新居清・犬伏利治(1959)：ナスのトンネル栽培に関する研究(第2報)。徳島農試研報，(4)：34。
- (14) 富岡芳雄(1960)：ナスのトンネル栽培に関する研究(第4報)2，4-D処理による落果防止と肥大促進。園芸春季発表要旨(昭35)。
- (15) 富岡芳雄(1960)：徳島県におけるシロウリの栽培法。農及園，35(3)：519。
- (16) 富岡芳雄(1960)：ナタマメの特性。園芸秋季発表要旨(昭35)
- (17) 富岡芳雄・新居清・犬伏利治(1960)：ナスのトンネル栽培に関する研究(第3報)。徳島農試研報，(5)：39～42。
- (18) 阿部泰典・新居清・内藤恭典(1964)：ナスのハウス栽培における2，4-Dの全面散布の効果について。徳島農試研報，(7)：7～11。
- (19) 安芸精市・新居清・内藤恭典(1966)：ニンジン四品種間における種子の発芽遅延現象と発芽抑制物質の存在について。徳島農試研報，(8)：38～40。
- (20) 安芸精市・田島一世・新居清・内藤恭典(1967)：金時人参種子の発芽に関する研究(第9報)種子中における発芽抑制物質 Carrotol の時期別消長。徳島農試研報，(9)：49～51。
- (21) 安芸精市・内藤恭典・新居清(1967)：ニンジンの4・5月採り栽培に関する研究(第1報)播種期別被覆資材の相違が収穫期に及ぼす影響について。徳島農試研報，(9)：52～54。
- (22) 新居清・安芸精市・内藤恭典(1967)：シロウリの接木栽培に関する試験(予報)。徳島農試研報，(9)：59～62。
- (23) 内藤恭典・安芸精市・新居清(1968)：イチゴハウス半促成栽培におけるビニール被覆時期が生育・収量におよぼす影響。徳島農試研報，(10)：79～84。

15. 土 壤 図

- (1) 土壌区分
 - ① 農芸化学科(1957)：徳島県那賀川下流北岸地域土壌区分図
 - ② 農芸化学科(1960)：徳島県那賀川・勝浦川下流地区土壌区分図
 - ③ 農芸化学科(1962)：徳島県吉野川・勝浦川下流地域土壌区分図
 - ④ 農芸化学科(1967)：徳島県吉野川中流地域土壌区分図
- (2) 生産性分級図
 - ① 農芸化学科(1963)：畑地土壌生産性分級図一勝浦・佐那河内地域
 - ② 農芸化学科(1964)：畑地土壌生産性分級図

- 徳島市・小松島市・阿南市柑きつ園
- ③ 農芸化学科(1965)：畑地土壤生産性分級図—鳴門市下板地域
 - ④ 農芸化学科(1966)：畑地土壤生産性分級図—上板地域
 - ⑤ 農芸化学科(1968)：畑地土壤生産性分級図—阿波・麻植地域
 - ⑥ 農芸化学科(1969)：畑地土壤生産性分級図—美馬・三好地域
 - ⑦ 農芸化学科(1970)：水田および畑土壤生産性分級図—鳴門・板野地域
 - ⑧ 農芸化学科(1971)：水田および畑土壤生産性分級図—小松島・勝浦地域
 - ⑨ 農芸化学科(1971)：水田および畑土壤生産性分級図—海部地域
 - ⑩ 農芸化学科(1972)：水田および畑土壤生産性分級図—徳島地域
 - ⑪ 農芸化学科(1972)：水田および畑土壤生産性分級図—阿南地域
 - ⑫ 農芸化学科(1973)：水田および畑土壤生産性分級図—那賀山分地域
 - ⑬ 農芸化学科(1974)：水田および畑土壤生産性分級図—三好地域
 - ⑭ 農芸化学科(1974)：水田および畑土壤生産性分級図—阿波麻植域

- ⑮ 農芸化学科(1975)：水田および畑土壤生産性分級図—阿波・麻植地域
- ⑯ 農芸化学科(1979)：徳島県耕地土壤図（縮尺1：150,000）

(3) 土地分類

- ① 後藤恭・美馬克美(1972)：土地分類基本調査—池田—土壤図（徳島県の耕地部分）
- ② 後藤恭・山本英記(1974)：土地分類図—徳島県—土壤図（耕地部分）
- ③ 後藤恭・川口公男(1976)：土地分類基本調査—甲浦—土壤図（徳島県の耕地部分）
- ④ 後藤恭・川口公男(1977)：土地分類基本調査—脇町—土壤図（徳島県の耕地部分）
- ⑤ 川口公男・美馬克美(1978)：土地分類基本調査—日和佐—土壤図（耕地部分）
- ⑥ 川口公男・岡田俊美(1979)：土地分類基本調査—阿波富岡—土壤図（耕地部分）
- ⑦ 川口公男・岡田俊美(1980)：土地分類基本調査—桜谷—土壤図（耕地部分）
- ⑧ 川口公男・岡田俊美(1981)：土地分類基本調査—剣山—土壤図（耕地部分）
- ⑨ 川口公男・岡田俊美(1983)：土地分類基本調査—雲早山—土壤図（耕地部分）
- ⑩ 中野隆司・川口公男(1983)：土地分類基本調査—川口—土壤図（耕地部分）